

2024年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	職業指導 (Vocational Guidance)		
ナンバリングコード	K31001	大分類 / 難易度 科目分野	教職科目 / 応用レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	3年 / 前期(工学部)・後期(経営経済学部)
必修・選択区分	教職関係科目(必修):高等学校教諭一種免許状(工業)、高等学校教諭一種免許状(商業) ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	K003101	クラス名	工学部
担当教員名	長須 正明		
履修上の注意、履修条件	今までの自分の学校生活を振り返ることが出発点。教職の授業ですから「児童」「生徒」「学生」の立場だけでなく「自分が先生だったら・・・」という視点が求められます。その視点からは今までとは違った学校や教育の姿が見えてくるはず。何よりも教職を目指す熱意と視野を広める努力を期待します。		
教科書	なし(授業担当者が作成したワークシート、データ資料、検査類を使って授業をすすめる)		
参考文献及び指定図書	参考図書①:職業とは何か/梅沢正(講談社)/700円 参考図書②:生徒指導・進路指導の理論と実際/河村茂雄編 長須正明・曾山和彦ほか著(図書文化社)/2625円		
関連科目	教職科目、教職免許状の種類に応じた専門科目		

○基本情報	
授業の目的	職業指導(Vocational Guidance)は教育職員免許法に規定された「工業」「商業」免許の必修科目です。学校では就職、進学などの狭義の進路指導＝「出口」指導＝から広義の進路指導＝「生き方」指導(キャリア教育)＝に重点が移行しつつあります。この授業では「働くこと」「職業」を基礎に「個人の生き方」(ライフ・キャリア)についても考え、理解を深め、指導力(キャリア教育の指導力)を高めることをめざします。併せて受講する学生の皆さん自身のキャリア・デザイン力を高めることも目標とします。
授業の概要	この授業は、知識伝達型の授業ではなく問題提起型の授業です。授業担当者が開発した適性検査を実施するなど、受講者が自分自身をよく知るのに役立つ授業展開をします。また、産業や職業、働く人、働き方のリアルな姿を知るために映像教材(DVD)を使用して、自分の問題として「働くこと」「キャリアを設計すること」にアプローチできるように授業を展開します。授業の展開の過程で各種データをみて、学生のみなさんが問題たて、自分のアタマで考え、自分の意見をまとめ、自分の言葉で表現できるようになることが行動レベルでの到達目標です。担当者による授業は、一つの問題提起にすぎません。初めから決まっている正解はもちろんありません。まず自分で考え、ディスカッションに参加して他者の意見も聞き、問題をクリアにしてそれに向き合うことを求めます。
授業の運営方法	(1)授業の形式 「講義形式」 (2)複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3)アクティブ・ラーニング 「PBL(課題解決型学習)」
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	産業や職業、働く人、働き方等に関して映像教材(DVD)を使用して、自分の問題として「働くこと」「キャリアを設計すること」にアプローチする		5点	5点
【知識・理解】	授業担当者が開発した適性検査を実施するなど、受講者が自分自身をよく知る(自己理解)、産業や職業、働く人、働き方のリアルな姿を知る(働く世界の理解)、自分が大切にしたいこと(価値意識)に気づく		40点	
【技能・表現・コミュニケーション】	各種データをみて、問題たて、自分のアタマで考え、自分の意見をまとめ、自分の言葉で表現できるようになる		20点	5点
【思考・判断・創造】	キャリア・デザイン力を高める		20点	5点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
知識伝達型の授業ではなく問題提起型の授業なので、知識再現型のテストは行いません。毎時間のリアクション・ペーパーとミニレポート(40点)と学期末の課題エッセイ(60点)によって評価します。評価の基準は問題の立て方、自分の経験をふまえた論旨の展開、自説の論理性です。「正解」はもちろんありません。まず自分で考え、ディスカッションに参加して他者の意見も聞き、問題をクリアにしてそれに向き合うことを求めます。	
課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。	

○その他	
前期(工学部:工業免許状)と後期(経営経済学部:商業免許状)の授業展開は同じですが、映像が工業関連中心(前期)と商業関連中心(後期)に分かれる部分があり、「生き方」に関連する映像(動画)は共通です。	

## 2024年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	職業指導 (Vocational Guidance) 長須 正明	授業コード	K003101
<b>学修内容</b>				
<b>1. 職業とは何か？(オリエンテーション)</b> 「職業」とは何か？「職業」は元々日本にあった考え方ではなく、明治の初めにヨーロッパから輸入した考え方である。職業の意味、職業の歴史、社会的分業など、職業についての基本的知識を確認した上で「職業指導」とは何か？を考える。その際、「職業指導」「進路指導」「キャリア教育」の相違を明らかにする				
予習				約2時間
復習	「職業指導」「進路指導」「キャリア教育」の相違をワークシートにまとめる			約2時間
<b>2. 私たちはなぜ働くのか～職業の意味と機能</b> 「私たちはなぜ働くのか？」を考える。労働社会学では働くことの意義は3つあるとされる。それは「個人的意義」「経済的意義」「社会的意義」である。これを実際の生活に則して考え、自分は何のために働くのかを考え、表現する。映像1(動画1)を視聴する。				
予習	自分は何のために働くのかを考え、メモを作ってくる			約2時間
復習	自分の将来設計の中で、働くことの意味と重みをワークシートにまとめる			約2時間
<b>3. 自分は何のために働くのか？</b> 「個人化社会」の中で、あらためて自分は何のために働くのかを「自分の問題」として主体的に(当事者意識をもって)考える。映像2(動画2)を視聴する。「正規雇用」⇔「非正規雇用」のメリット、デメリットを考え、あわせてフリーター、若年・中高年無業者はどんな人たちで、なぜそうなっているのかを「社会の問題」として見てゆく				
予習	働くことに関する映像2(動画2)を見て感想をメモしてくる			約2時間
復習	ワークシートに記入して授業内容をまとめる			約2時間
<b>4. 産業と職業</b> 日本における労働の場を考えると、「産業」(事業所が行う活動の分野を表す概念)と「職業」(個人が行う仕事の分野を表す概念)から考えることができる。ここでは総務省「日本標準産業分類」と「日本標準職業分類」から「産業」と「職業」について理解を深める。また、「産業」も「職業」も不変のものではなく、社会の変化にともなって変化することにも目を向ける。映像3(動画3)を視聴する				
予習	現代の産業と職業に関する映像3(動画3)を見て感想をメモしてくる			約2時間
復習	ワークシートを使って「産業」と「職業」についてまとめる			約2時間
<b>5. 職業のとらえ方とDPTの概念(1)産業と職業の構造を知ろう</b> 前回の授業内容「産業と職業」をふまえて、「産業構造の変化」と「社会の変化」を考える。また、「産業や社会」の変化は、「働くこと」や「職業」さらには「ライフスタイル」の変化につながることを理解する。その上で、これからの社会はどのように変化するのか？いくつかの観点から考察する。映像4(動画4)を視聴する。				
予習	新しい産業、新しい職業を調べてメモを作ってくる。			約2時間
復習	産業と職業の構造をワークシートにまとめる			約2時間
<b>6. 職業のとらえ方とDPTの概念(2)職業適性検査とその構造</b> DPT:D(Data)P(People)T(Thing)は、職務の遂行に必要な能力に注目して、職業の特性をとらえようとする考え方で、アメリカの職業分類や多くの職業適性検査に用いられている概念である。私たちが「仕事をする」ということは、何らかの対象に働きかける活動を行うことである。どのような対象を扱うのかという点に注目して、仕事を行う上で必要な能力を情報(D:Data)、人(P:People)、モノ(T:Thing)の3要素に分けて考えるのがDPTの概念である。この授業ではDPTの概念を理解した上で、授業担当者が作成した「職業適性検査」を行い、理解を深める。映像5(動画5)を視聴する。				
予習	自分の今までの経験から「得意⇔不得意」「向き⇔不向き」を考え、メモしてくる			約2時間
復習	授業中に行った「職業適性検査」のスコアから「自分の特性」を考え、ワークシートにまとめる			約2時間
<b>7. 適性(1)適性とは何か？</b> 「適性」についての古典的文献(辻岡美延 1981「適性概念の操作的定義について」)をもとに、「適性」に関する理解を深める。その際、「適性」は不変のものではなく、変化するものであることに注意する。前回の授業でおこなって、自己採点でスコアリングした「職業適性検査」結果からあらためて「自己の適性」について考える。				
予習	授業で扱う文献を読んで重要だと思われる内容にマーカーをつける			約2時間
復習	ワークシートで「適性」を整理する。自己の能力・適性についてこれからの生活でどのように活かすかを書く			約2時間
<b>8. 適性(2)職業適性の価値基準</b> 前回の授業で扱った文献を再度読んで、「適性」は「価値基準系」に基づいていることを理解する。文献中の図を見て、価値基準系とその変化について理解する。映像6(動画6)を視聴する				
予習	自分の能力や「向き⇔不向き」は経験によって変わるという経験をメモ形式で書いてくる			約2時間
復習	授業内容をワークシートにまとめる			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	職業指導 (Vocational Guidance) 長須 正明	授業コード	K003101
<b>学修内容</b>				
<b>9. 会社の世界～個人は組織の中で職業を変える？</b> 授業資料「DPT能力3領域に基づく職業マップ」、「会社の世界」をつかって「組織の中の『職業』」について理解を深める。そのときに、どんな人でも、どんなときにも「できることはある」こと、またそれは「一つではない」ことに注意する。映像7(動画7)を視聴する。				
予習	「職業マップ」および「会社の世界」を見て、自分がやりたいことはどのように位置づけられるかメモを作ってくる			約2時間
復習	ワークシートに記入して、授業内容をまとめる			約2時間
<b>10. 社会の構造と産業・労働</b> 日本国内の地域間格差と地域内格差をデータを基に考察する。その際、今では大卒就職が中心になったためマイナーな問題とされがちな「高卒就職」に焦点を当てて考察を進める。映像8(動画8)を視聴する。				
予習	就職に関するデータを見て、気づいたことをメモしてくる			約2時間
復習	ワークシートに記入して授業内容をまとめる			約2時間
<b>11. キャリアとは何か？～個人の生き方としてのキャリア</b> 「キャリア」の概念は、狭義の「職業」や「働くこと」から「個人の生き方全体」に拡大してきている。ここでは「キャリア」を「生活全体の中に位置づける(ワークキャリア)」と「究極としての生きる目的(ライフキャリア)」から考察する。ポイントになるのは発達課題とも重なる「どこで暮らすか」「誰と暮らすか」「どんな仕事を・どんな働き方ですか」、そして究極は「何を大切に生きるか」である。映像9(動画9)を視聴する。				
予習	授業資料「ライフキャリアの要素」「ワークキャリアの要素」「選職条件」をみて、自分の考えをメモしてくる			約2時間
復習	ワークシートに記入して授業内容をまとめる			約2時間
<b>12. 自分のキャリアをデザインする(1)自分が望むライフスタイル</b> 個人の生き方(ライフキャリア)は「ライフスタイル」に現れる。映像10(動画10)を視聴する。「自分が望む生活」=「自分のライフスタイル」で重視することはなにか？自分が望む生活をするために必要なこと・必要なものは何か？を考える。				
予習	将来の生活について、今の時点での見通しをメモしてくる			約2時間
復習	ワークシートに記入して授業内容をまとめる			約2時間
<b>13. 自分のキャリアをデザインする(2)自分の人生で大切にしたいこと</b> 自分のこれまでの生活で大切にしてきたこと、これからの生活で大切にしたいことを「家族」「人間関係」「仕事」「働き方」を中心に、その生活全体に対する重みに注目して考える。映像11(動画11)を視聴する。				
予習	自分のこれまでの生活で経験したことを振り返り、これからの生活で大切にしたいことを考えメモしてくる			約2時間
復習	ワークシートに記入して授業内容をまとめる			約2時間
<b>14. キャリア発達の考え方～生涯キャリア発達の理論</b> これまでの授業内容をかんたんに整理して、「生涯キャリア発達」の諸理論に照らして、自分の人生全体を考える。その際、「自分が納得できる生き方」=「自分の幸せ」はどこにあるのかに注目する。映像12(動画12)を視聴する。				
予習	Super、Dの「キャリアの虹」を見て、気づいたことをメモしてくる			約2時間
復習	ワークシートに記入して授業内容をまとめる			約2時間
<b>15. 自己実現を目指すキャリア・デザイン(授業のまとめとディスカッション)</b> 受講者それぞれの「将来の生き方設計」をグループ・ディスカッションして、様々な価値意識に触れ、自分の考えを相対化した上で、もう一度検討して深める。				
予習	授業で見た映像、授業で紹介した資料等から「自分の将来設計」についてもう一度考え、メモしてくる			約2時間
復習	グループ・ディスカッションで気づいたことをワークシートにまとめる			約2時間
<b>16. 期末試験(期末エッセイの作成)</b> これまでの授業内容をふまえて、また作成したワークシートを参考に期末エッセイを作成する				
予習	エッセイのプロットをメモしてくる			約2時間
復習				約2時間